

## 台風 2 号接近に伴う技術対策について

日本気象協会発表によると、猛烈な勢力の台風 2 号が勢力を維持しながら沖縄地方に接近する予報がされています。台風の接近に伴い、日本海側にも暖かく湿った空気が流れ込み、雨雲が発達して雨が強まる恐れがあります。雨雲前線は 5 月 31 日の水曜日頃にかけて南下し、その後停滞する見込みであるため、影響が長引くことが懸念されます。つきましては、以下を参考として、台風に備えていただくようお願いいたします。

### 1 水 稲

#### (1) 通過前

台風の強風による暖かく乾燥した空気で葉が乾燥することを防ぐため深水管理に努めるとともに、稲が水没しないよう予め排水口を調節しておく。

#### (2) 通過後

- ①冠水している場合は、速やかにほ場からの排水に努める。
- ②植え付けから間がないほ場では活着不十分な苗が欠落していないか確認し、予備苗が手元にあり特に必要がある場合は補植を行う。

### 2 野菜・花き

#### (1) 通過前

- ①ハウス栽培については、ハウス内に風が吹き込まないように、被覆資材破損部は補強し、しっかりと閉めきる。また、資材固定金具やハウスバンドが緩んでいないか点検して締め直し、サイドが風であおられないよう固定する。
- ②露地栽培については、支柱やフラワーネットを点検して補強し、しっかり固定する。直播きであって、生育初期のものはネット資材等で防風し、茎葉を保護する。その際、ネット資材は風にあおられないようにしっかり固定する。また、ほ場が冠水しないよう、排水路を整備する。

#### (2) 通過後

- ①滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ②液肥（500～1,000 倍）を施用し、草勢の早期回復を図る。

- ③風雨による傷から菌類が侵入し、病害の発生が予想されるので予防防除を実施の上こまめに観察し、病害の発生が認められれば発生初期に防除を行う。
- ④収穫可能なものは速やかに収穫し、また、播種直後や植え付け直後に被害にあった場合は、直ちに播き直しや予備苗による植え直しを行う。
- ⑤果菜類で根傷みが懸念される場合は摘果や若取りにより着果負担を軽減する。

### 3 果樹

#### (1) 通過前

- ①防風ネットは柱の倒壊を防ぐため、控え線や杭を打って補強する。また、ネットの破れ目を補修しておく。果樹棚は周囲線の留め金、アンカーからの控え線、吊り線を点検し、切れないように補強しておく。また、棚の揺れ止め補強を行っておく。ハウス（雨よけ含む）では、被覆が破れないように、押さえバンドで補強するとともに、ハウスごと飛ばないように、柱から控え線を張って補強しておく。
- ②排水対策（明きよ等）をしっかりと行っておく。

#### (2) 通過後

- ①骨格枝が完全に折れた場合は、鋸等で折れ口をなめらかに切り戻して、癒合剤を塗布する。不完全な場合は固定し、癒合面が乾燥しないようにビニール等で覆う。
- ②冠水した場合は、速やかな排水に努める。

### 4 茶

#### (1) 通過前

- ①傾斜地茶園では、浸食防止のため土壌表面のマルチや周辺排水溝の整備を行う。
- ②被覆棚では、ほどけた被覆資材が強風を受けて倒壊する恐れがあるため、被覆資材が支柱等へ確実に結束できているか確認する。
- ③製茶工場では、雨水が浸入しないように十分に点検する。
- ④刈り取り適期であって、時期をずらせない場合は事前に摘採を行う。

#### (2) 通過後

- ①茶園が浸水した場合は、速やかに排水を図るとともに漂着物を除去する。
- ②土砂が流入した場合は速やかに取り除く、また、表土や肥料の流亡が確認された場合は早急に土入れ・再施肥を行う。
- ③摘採後、整枝後または柔らかい芽が着生している茶園では、病害侵入防止のため殺菌剤を散布する。